

著者紹介（執筆順）

■ 佐藤 仁（さとう・じん）

東京大学東洋文化研究所新世代アジア研究部門・教授。「そこに見出されるもの」としての「資源」、「よそから持ち込まれるもの」としての「援助」。それぞれをめぐる統治と両者の組み合わせのあり方を東南アジアの文脈で研究している。著書に、『野蛮から生存の開発論』（ミネルヴァ書房、2016年）、『持たざる国の資源論』（東京大学出版会、2011年）、『反転する環境国家』（名古屋大学出版会、2019年）、そして『開発協力のつくられ方』（東京大学出版会、2021年）、『争わない社会：「開かれた依存関係」をつくる』（NHK出版、2023年）などがある。

■ 汪 牧耘（おう・まきうん）

東京大学東洋文化研究所・特任研究員。専門は開発研究。特に中国や日本における国際開発の知的系譜を歴史資料と今日の実践から紡ぎ出すことを試みている。著書に、『中国開発学序説』（法政大学出版局、近刊）、論文に、「中国における国際開発研究の受容と展開：脱「欧米中心主義」の可能性の一考察（『アジア経済』64(3) p.31-60、2023/9）」、「中国開発学試論——先駆的研究者のあゆみからひもとく」（『異文化』(22) p.107-129、2021）、「開発＝开发（カイファー）」の意味変容と概念形成——日中における言葉の借用を中心として」（『国際開発研究』29(1) p.89-99、2020）などがある。

■ KIM Soyeun（きむ・そやん）

韓国ソガン大学東アジア研究所・教授。専門は批判的開発地理学、批判的開発学、政治生態学。特にアジアにおける開発協力（その知識生産と実践）が東南アジア地域に及ぼす社会的・環境的影響の研究をしている。論文に「Development Knowledge in the Making: The Case of Japan, South Korea and China」(Progress in Development Studies 23(3) :275-293、2023/7、佐藤仁・汪牧耘共同執筆)、「Rendering (in-)visible? analysing the formation of Japan's Triangular Development Cooperation in Southeast Asia」(Globalizations19(7): 1068-1087、2022) などがある。

■ MAEMURA Yu Oliver (まえむら・ゆう・おりばー)

東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻制度設計講座・講師。専門分野は国際協力学、交渉学、コミュニケーション学・言語学、評価理論で、研究テーマは国際援助事業評価の不偏的評価。論文に、「Impartiality and Hierarchical Evaluations in the Japanese Development Aid Community」American Journal of Evaluation, 37(3), 408-424, 2016/9、「Organizational and institutional factors affecting high-speed rail safety in Japan」Safety Science 128, 104762, 2020/8 (共同執筆) などがある。